

事業の基礎情報

実施主体	社会医療法人財団 董仙会
事業実施地域	石川県七尾市
共創の類型	他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉
共創パートナー	社会福祉法人 徳充会
運行形態	①AIデマンド交通 ②自家用（無償）
運行主体	株式会社大蔵 おおくら観光

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

- ✓ 七尾市地域公共交通計画に記載の通り、運行事業者は運転手不足と働き方改革により、運行維持困難になる便や路線が出てくる可能性がある。そのため、地域における運転手のリソースを効率的に活用することが求められており、その点は医療・介護・福祉分野の送迎においても同様。手作業のため必ずしも効率的とは言えないルート計画の自動化等を図ることで、輸送にかかる資源を有効活用。より多くの地域住民が医療・介護・福祉サービスにアクセスできる環境づくりを進める必要があると史料。
- ✓ 公共交通機関の用途として「通院」が多く挙げられているが“バス停が遠い”“目的地まで時間がかかる”等との声があり、医療・介護・福祉サービスへのアクセスが必要な高齢者にとって必ずしも利便性が高い状態ではないと推察。今回の取り組みで得た知見を公共交通へ還元することで、既存の路線方式からAIデマンド交通への切り替え、また、データ分析等を通した運行エリアの見直し、路線の統廃合等、限られた輸送資源で地域の足を支える仕組みづくりを支援。

地域公共交通計画への位置づけ
(位置づけ予定を含む)

有

運輸局・運輸支局への事前相談

北陸信越運輸局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

事業の全体像・共創の仕組み

共創プラットフォーム

社会福祉法人 徳充会
- 施設利用者の管理、関係者への連絡 - 施設間連携の推進
共創パートナーの負担
送迎サービス提供に必要な車両関連費用、運転手に係る費用については徳充会が負担するものとする。

実証実験への協力

送迎運用改善



実施主体

社会医療法人財団 董仙会

- 共創プラットフォーム運用計画策定、管理
- システム要件の洗い出し、実装

実証実験結果の共有
(連携)

七尾市
(企画政策課)

乗務員提供

送迎バス運行委託



運行主体

株式会社 大蔵 おおくら観光

- システムを用いた車両運行
- 運行に関する課題のフィードバック

取組の概要

(事業の概要)

過疎や高齢化の進行等により介護施設の利用者が減少、加えて震災で被災した施設の統廃合を進める予定。また働き手の不足、関連法規改正を踏まえ、手作業で行っている車両35台分の送迎運用をデジタル化。生産性・運行効率性を高めることで、地域住民の方が医療・介護・福祉サービスにアクセスしやすい環境を整備すると共に、便利に使える社送迎サービスの提供を目指す。

(地域の関係者との連携・協働)

共創パートナーとの連携により市内の医療・介護・福祉6施設で送迎モデルを確立。地域他施設へ展開することを目指す。また、医療・学校等他用途での送迎を担う交通事業者からのフィードバックを受け、精度の高い運行オペレーションを構築。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

路線バス、鉄道との乗り継ぎをスムーズに行うため、各モダルの時刻表と同期。地域を面で支える送迎網を構築。

石川県七尾市等における送迎業務の統合・デジタル化事業

応募様式A

医療・介護・福祉送迎業務デジタル化共創プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

	2024年						2025年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施主体 ----- 董仙会	要件整理 ・実施計画の詳細化、関係者への説明等	環境整備 ・送迎システム環境の構築、トレーニングの実施等	実証実験（全体統括・運用） ・医療、介護、福祉送迎運用および管理 ・必要に応じた運用改善 ・利用者へのアンケート 等				効果検証・本格運用計画策定 ・実証実験データの収集、分析 ・本事業終了後の運用計画策定 等		
運行主体 ----- おおくら観光		運行準備 ・体制整備、トレーニングの実施 等	実証実験（運行） ・運行上の課題フィードバック ・運用改善後の確認				計画確認 ・本格運用時の協力内容の確認 等		
共創パートナー ----- 徳充会		運用準備 ・体制整備、利用者への説明等	実証実験（運用支援） ・介護、福祉送迎運用支援 ・運用上の課題フィードバック ・運用改善後の確認				効果検証・本格運用計画確認 ・実証実験データの収集 ・本事業終了後の運用計画確認 等		

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

AIオンデマンドバスの仕組みを活用することで、乗車時間・場所を柔軟に選択可能な送迎サービスを提供。七尾市地域公共交通計画に記載の“バス停が遠い”“目的地まで時間がかかる”等の公共交通に関する課題を解決するとともに、地域住民の医療サービスへのアクセス向上。免許を有さない人口の約25%（[七尾市地域公共交通計画抜粋](#)）の住民にとっては特に有益であると思料。また、運行効率の向上により、運転手のリソースを最大限活用し運行事業者が持つ課題解決も支援。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

運用や制度設計が画一的な医療・介護・福祉送迎に対して、本事業で作り上げた送迎モデルは七尾市内の134施設（[地域医療情報システム抜粋](#)）に加え、他自治体でも活用できるものと思料。また、限られた運行リソースを有効活用するため、自治体・地元事業者が連携して公共交通と民間送迎を共同運行する等、移動の足を支える仕組みづくりに本事業を通して蓄積される知見やデータの活用が可能。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

☐	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
☐	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	☐	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

次年度以降については実施主体および共創パートナーが資金を拠出し運行を継続予定。

資金面	今回の実証事業に関する運用については実施主体および共創パートナーが資金を拠出し継続予定
人材面（運転手の確保）	運行主体からの調達および実施主体、共創パートナーが自ら採用することで運転手を確保予定